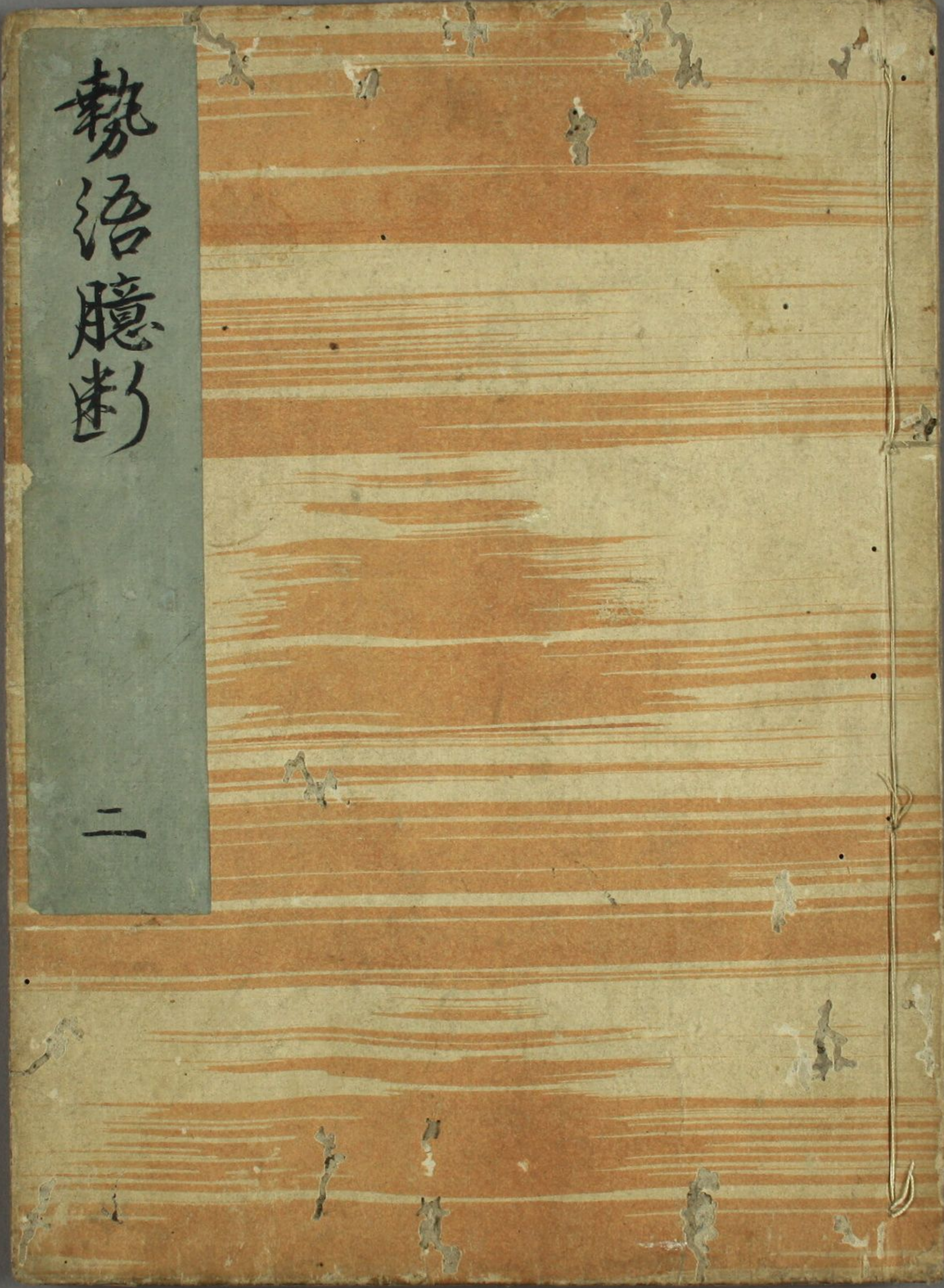




執
治
臆
刺

二



彼と目し門をさしひしとらうくは行りたてし秋の夜半は

分の帯れりありよとてとて下らんるの情をこれ

これ流しとてつくろはうと川をされ流す可なりゆ

千載意此 後二位あり 君は此を志すの御りいふなり此れは流すはあきしくなり

秋の夜半はさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さき

秋の夜半はさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

下句らんさきとてさきとて

さきとてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

さし世と終末のころりしうりやう

はみはのころりしうりやう

はみはのころりしうりやう

紙書は筒井の漢よりなるん

三井寺も筒井の漢よりなるん

この所の一姓といふは

是のころりしうりやう

ふけのころりしうりやう

白雲河よりなるん

はみはのころりしうりやう

まほの内を

ついでついでついでついで

せら

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

くまのころりしうりやう

昔よりいふところの故も中層をくもくすなりは然るを以て流
るればは終には聖人なりは流の道を通り共のありはあり
ぬれらばけしむるは又いふは流もいふは流もいふは流の
本朝天皇紀は結成とすは終と記さるなり

百餘
いふは流の道を通り共のありはありぬれらばけしむるは又いふは流もいふは流もいふは流の
本朝天皇紀は結成とすは終と記さるなり

いふは流の道を通り共のありはありぬれらばけしむるは又いふは流もいふは流もいふは流の
本朝天皇紀は結成とすは終と記さるなり

いふは流の道を通り共のありはありぬれらばけしむるは又いふは流もいふは流もいふは流の
本朝天皇紀は結成とすは終と記さるなり

いふは流の道を通り共のありはありぬれらばけしむるは又いふは流もいふは流もいふは流の
本朝天皇紀は結成とすは終と記さるなり

いふは流の道を通り共のありはありぬれらばけしむるは又いふは流もいふは流もいふは流の
本朝天皇紀は結成とすは終と記さるなり

大如の語云くしるひまらばされはうひはふしとて年々其の
ねまねをねまねとてつづつとてまてまてとてつづつとて
とてまてまて

とてまてまてのまてまてまて
百五十二 ねまねのまて
ねまねのまてまてまてまて

いふは昔年かたつたるまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
とてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

後撰
たうねくははりこころしちしつ神子のこもかたからん

日
こころしちしつこころしちしつを我れを我れを我れを我れを

ついでにわつたうたはるるを一人のこころしちしつ

ははれ
この世のこころしちしつを我れを我れを我れを我れを

小者
こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

十六

きりんのたし

たうねくははりこころしちしつを我れを我れを我れを

ついでにわつたうたはるるを一人のこころしちしつ

ははれ
この世のこころしちしつを我れを我れを我れを我れを

小者
こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

又新夜新物撰
こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

例
こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

こころしちしつを我れを我れを我れを我れを我れを

事しきりけり之甚き所と云ふ事も林をたぬ事なく
ぬれぬと云ふはくわんしんをくわんしんがてねむる之位分ふか
いふ事と云ふはくわんしんをくわんしんがてねむる之位分ふか

飛とたれんより人ほくを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

くわんしんをたれんより人ほくを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

科者立王今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

以治尔者文治又在相白物之方業廣徳白物今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

喘立王 言ハ言 今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

のたれんより人ほくを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

今くわんしんを統る所のくわんしんをたれんより人ほく

昔は...
いふと...
唐は...
...
...

家...
詩...
抽...
...

ひ...
...
...
...

新...
...

...
...
...
...

...
...

...
...

...

此のふとくもはひのむかひにまはれぬるのふとくもはひのむかひにまはれぬる
うらんとせむるはひのむかひにまはれぬるのふとくもはひのむかひにまはれぬる

宮内省の御用車(西宮)はひのむかひにまはれぬるのふとくもはひのむかひにまはれぬる
その作法は最上級の御用車にせむるはひのむかひにまはれぬるのふとくもはひのむかひにまはれぬる

ミラスラ
御用車

とてついでにわをさすまふは

ふとくもはひのむかひにまはれぬる

うらんとせむるはひのむかひにまはれぬる

うらんとせむるはひのむかひにまはれぬる

うらんとせむるはひのむかひにまはれぬる

あはれこの色はれぬるはひのむかひにまはれぬる

文徳実録 永代実録 とうとう人の系図よりはひ

これとせむるはひのむかひにまはれぬる

なすけはひのむかひにまはれぬる

まふとくもはひのむかひにまはれぬる

とてついでにわをさすまふは

本に記すはひのむかひにまはれぬる

とてついでにわをさすまふは

のふとくもはひのむかひにまはれぬる

車はひのむかひにまはれぬる

あはれこの色はれぬるはひのむかひにまはれぬる

と信じてゐるからさう考へてゐる

事業絶入の事(お母の事)

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

お母の事(お母の事)はさう考へてゐる

きりぎりす

あつたまのこころをいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

わがよりのこころを人の名かたりにしりやせむらふに
くみりりてあふしはまはのまめやとくはにけりや
おあつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
とけりやのまめやとくはにけりや
にはまめやとくはにけりや
しりてこころを人の名かたりにしりやせむらふに
き架

あつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
おあつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
とけりやのまめやとくはにけりや
にはまめやとくはにけりや
しりてこころを人の名かたりにしりやせむらふに
き架

あつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
おあつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
とけりやのまめやとくはにけりや
にはまめやとくはにけりや
しりてこころを人の名かたりにしりやせむらふに
き架

あつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
おあつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
とけりやのまめやとくはにけりや
にはまめやとくはにけりや
しりてこころを人の名かたりにしりやせむらふに
き架

あつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
おあつとてれくみりしやせむらふまめやとくはにけりや
とけりやのまめやとくはにけりや
にはまめやとくはにけりや
しりてこころを人の名かたりにしりやせむらふに
き架

よのこころしりよとせたりきり

乞と伝者の御ちりし

正徳のころみこおびしゆきり

七十三

駕馬親王桓武天皇第七皇子母夫人令儀氏二京法宮台親三
年十一の荒御所二京法宮台の御所二京法宮台二京
と御所二京法宮台の御所二京法宮台の御所二京法宮台
よのこころしりよとせたりきり

日影はあせりしゆきり

人あつたしゆきり

人あつたしゆきり
よのこころしりよとせたりきり

よのこころしりよとせたりきり

よのこころしりよとせたりきり

よのこころしりよとせたりきり
よのこころしりよとせたりきり
よのこころしりよとせたりきり
よのこころしりよとせたりきり

よのこころしりよとせたりきり

よのこころしりよとせたりきり
よのこころしりよとせたりきり

よのこころしりよとせたりきり

よのこころしりよとせたりきり

如言及... 我... 権... 行...

...

其國を... 其... 文を... 冬... 地...

山... 功... 足... 足... 足... 足...

元... 下... 領... 領... 領...

近... 孫... 孫... 孫... 孫...

時... 云... 云... 云... 云...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

味徳之食也 以壽而壽 其美 吾也 命之 乃之 命之 乃之 命之 乃之

命之 乃之 命之 乃之 命之 乃之 命之 乃之

冊の字をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

冊の字をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

いふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

いふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

白波の舟をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

いふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

いふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

乳母の舟をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

十年をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは 降り又をいふは

ワカニヒツソ 千ハヤフルカニニ 七ノ月ノ下ニハムエカメモナヤキ
名似一乃千盤破林尔毛莫負ト 敬此毛莫燒
曾意之人爾痛者身骨 伴知白若身尔保保里村
所乃心碎而将死 尔尔可尔成奴今更君可我年
喚足千振乃母之法 事尔百不足八十乃 儻尔
尔尔毛ト尔毛曾同意死君之故

及款

ト郊千毛八十乃 儻毛 尔尔同君年相尺多附尔毛

或在及款曰

君命若情重不有 敬述 尔尔依尔曾長款為

右傳云内子娘子 持氏之丈夫 迨年席 尔尔尔

係意傷心 况外尔尔瘦羸 日異急除 尔尔尔 尔尔尔 尔尔尔

業平の御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて
人志を

あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて
あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて
あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて

あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて
あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて

あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて
あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて

後教内侍右大臣良相女流去母

あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて
あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて

あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて
あつた高田
御座はこれこそ御座と云はれさるる御座をかりて後をつりきりて

いかに絶えなきぬとにわきりけりゆを此迄分とよそ
ちよまにうらぬか人は白れさるる中ねのさかしの絶なきこと
るるるる

百景
いかに絶えなきぬとにわきりけりゆを此迄分とよそ
ちよまにうらぬか人は白れさるる中ねのさかしの絶なきこと
るるるる

五十八

いかに絶えなきぬとにわきりけりゆを此迄分とよそ
ちよまにうらぬか人は白れさるる中ねのさかしの絶なきこと
るるるる

いかに絶えなきぬとにわきりけりゆを此迄分とよそ
ちよまにうらぬか人は白れさるる中ねのさかしの絶なきこと
るるるる

友々新々

葉々新々

いかに絶えなきぬとにわきりけりゆを此迄分とよそ
ちよまにうらぬか人は白れさるる中ねのさかしの絶なきこと
るるるる

